

日本の歴史的建造物におけるバリアフリー状況 2

－好事例－

○水野智美 徳田克己
(筑波大学医学医療系) (子ども支援研究所)
KEY WORDS: バリアフリー 歴史的建造物 実地調査

(目的)

「日本の歴史的建造物におけるバリアフリー状況 1」では改善すべき事例を挙げた。本稿では、日本の歴史的建造物におけるバリアフリー状況を実地調査し、良く工夫されている箇所（好事例）を具体的に明らかにする。

(方法)

1. 調査対象

調査対象は、「日本の歴史的建造物におけるバリアフリー状況 1」と同様の 154 箇所であった。

2. 調査実施者：調査者は徳田と水野の 2 名。

3. 調査期間：調査時期は 2020 年 6 月～2021 年 2 月。

(結果)

車いす使用者、杖使用者、高齢者、バギー使用者がバリアを感じることなく、施設を利用できるような工夫が多く、歴史的建造物で確認できた。

以下に、物理的なバリアフリーの好事例、景観に配慮している事例、建造物のバリアをひとによって解消しようとしている事例を挙げて解説する。

j) 善光寺（長野）

本堂の脇に木製のスロープがある。正面からは目立たず、景観を壊さない。看板があるのでスロープの位置を確認できる。ただし、本堂の中に入るためのスロープの角度が急すぎる。仁王門に至る坂になっている参道には、金属製の段差解消スロープが設置されており、フラットになるように配慮されている。

a) 生田神社（兵庫）

本殿に上がるためのスロープが、建物に向かって右側に目立たないように設置されている。また、スロープの存在を知らせる看板があり、外国人にもわかるようにピクトグラムで表示してある。いくつかの寺社で見られるような「車いす専用」という表示はなく、誰もが使えるようになっている。

b) 北海道神宮（北海道）

境内に入るための長いスロープがある。スロープの距離を短くすると角度が急になるので、長く緩やかな方が使いやすい。ただし、本殿に上がるためのスロープが 2 か所にあるが、両方とも鮮やかな緑色であり、景観を壊す。

c) 北野天満宮（京都）

三光門に向かって右側に、目立たない形で、緩やかなスロープがある。ただ目立たないゆえに、そこにスロープがあることを知るのはむずかしい。

d) 清水寺（京都）

随所にスロープがある。車いすの通路も路上に車いすマークで示されており、また場所を表示している看板もあり、わかりやすい。ただし車いすの通路の傾斜がかなり急な箇所があり、車いす使用者の単独の使用が難しいと思われる。

e) 法隆寺（奈良）

この寺の中にあるスロープの多くは角度が急である。ただし、多くのスタッフがおり、要支援者にはすぐに声をかけている。「ひとによるバリアフリー」を徹底しようとしている。また、南大門に向かって左側にあるスロープは、門

を正面から見た際には全く目立たない。近寄ればそれがあることがわかる。景観を壊さない良い設置方法である。

f) 浅草寺（東京）

本堂に向かって左手に、本堂に上がるためのエレベーターがあるが、その存在に気がつかないほど景観に保護的である。エレベーターの場所を示す看板が何か所かにあるので、場所がわからなくて困ることはない。

g) 照国神社（鹿児島）

階段の昇降機や車いす用のリフトがある。ただし、一部の昇降機は桜島の火山灰のために故障中であった。

h) 日枝神社（東京）

山の上にある神社である。上りのエスカレータがある。

i) 泉岳寺（東京）

幅の広い車いすルートが独立してある。歩く人のルートとは交差しない。車いすで浅野家代々の墓と赤穂義士四十七士の墓を見ることができる。

j) グラバー園（長崎）

山の上にある施設である。上るためのエスカレータや動く歩道が随所に設置されている。障害者用駐車スペースの近くにある案内所に、アスファルトの坂道を上る人のための貸出用の電動車いすがある。なお、電動車いすは園内には 3 台あり、予約なしで借りることができる。

k) 風見鶏の館（兵庫）

二階建ての古い洋館であり、段差が多い。建物の入り口にも 10 段以上の段差がある。事務室に階段昇降ができる車いすがおいてあり、その場で申し込めば、職員がその車いすを操作して、車いす使用者が建物に入ることができる（車いす使用者はその車いすに乗り換える必要がある）。その車いすで 1 階部分は見学可能であるが 2 階には行けない。

l) 太宰府天満宮（福岡）

階段の縁に白線が引いてある。この白線によって、弱視の人や高齢者が階段の縁をはっきりと認識できる。転落を防ぐことができる。

m) 大阪城

入口に向かう石段の手すりが 1 本ではなく、パラレルな 2 本手すりになっており、上る人と下りる人のそれぞれが利用できる。

n) 大覚寺（京都）

寺社の中には、建造物の床を汚れや傷から守るために、杖使用者が自分の杖を使うのを禁止し、柔らかい石突の杖を貸し出すところや杖使用そのものを禁止しているところがある。この寺は入り口に布製の杖拭きを用意して、自分の杖を使用できるようにしていた。

o) 築地本願寺（東京）

歴史的建造物に設置されている多目的トイレは、ドアが手動のものがほとんどであり、車いす使用者が単独で利用することが困難であることが多い。この寺の本堂の 1 階にある多目的トイレのドアは自動であった。

付記 本研究は「2020 年度公益財団法人 鹿島学術振興財団」の助成を受けて実施した。

(MIZUNO Tomomi ,TOKUDA Katsumi)